

初中級レベルの読解指導

——教科書『日本語読解3』を使って何をどう教えるか——

浜 田 真理子

キーワード

初級の総復習，文法から内容理解へ，学生からの質問歓迎，
ひとりで読むための道筋をつける

はじめに

「初中級」と呼ばれるレベルは，初級から中級への橋渡しとなるレベルである。実質的には，初級を終わらせて学生の足並みを揃えて中級に進ませるための初級の最終段階にあたるものと考えられる。

筆者は，早稲田大学日本語研究教育センターにおいて（以下，日本語センターと言う），1999年度春学期から2001年度秋学期まで，初中級に該当するレベル3の読解¹⁾を担当した。初めの2学期は市販の教科書を使用した
が，その後，日本語センターのレベル3読解教材として本文編²⁾が出来上

-
- 1) 日本語センターのレベル3の読解クラスには、「読解3AB」と「読解3E」の二クラスがある。前者は，日本語センターの別科専修生向けの週1回二コマ続き（一コマは90分）のクラスであり，後者は，学部・大学院正規学生や科目等履修生向けの週1回一コマのクラスである。筆者は1999年度春学期から2001年度秋学期まで「読解3AB」を，2001年度前期・後期に「読解3E」を担当した。2002年度は「読解3AB」と「読解3E」を担当することになっている。
 - 2) 本文編は，北條淳子教授編纂で30課から成り，英語訳の語彙集がついている。

がったため、筆者らが練習問題を随時作成して³⁾、2000年度春学期から2001年度秋学期までの4学期間これを教科書試作版として使用した。

この読解教材は、その本文編の序文に述べられているように、初級レベルの学習項目の総復習を目指すとともに、「内容面の面白さ」も考慮したものであり、それまでに筆者が使用した市販の教科書に比べて、学生にとって身近な話題が多く、読む意欲も湧くようで評判がよい。この教材は、2002年度春学期から、『日本語読解3』と名付けられて、日本語センターのレベル3読解クラスの教科書⁴⁾として使用される予定である。

本稿では、4学期にわたって上記教材を使用した経験をふまえて、初中級では何をどう指導したらよいか、ならびに教科書『日本語読解3』の各課の指導項目と指導方法について考察する。

1. 初中級では何を指導するか

初中級の読解授業の目標は、教師側から見ると、初級の既習事項を文章の中で復習して、今後学生がひとりで勉強する場合にどう読んでいったらよいかを指導することにあると考えられる。また、読解とは、まずは文字通りの意味を理解して一文の意味をつかみ、次に、前後の文との関連から意味をとらえ直し、さらに文章全体の意味・意図を把握することであろう。

以上のことから、初中級レベル読解の指導項目として以下のものを設定

3) 練習問題は、筆者と日本語センターの寺田智美助手が作成した。1～9課および12・15・17～25課の、本文の内容理解に関する質問および本文内容に関連した学生個人についての質問（答えはともに記述式）は、おもに浜田が作成した。それ以外の練習問題、すなわち、10・11・13・14・16課および26～30課の練習問題すべて、ならびに1～30課の本文の内容理解に関する質問で答えが○×式のものと「文章表現」クラスとの連携を考えに入れた作文問題は寺田助手が作成した。

4) 『日本語読解3』は、本文、語彙集（英語訳のみ）、練習問題の3分冊から成る。

した。

文法：助詞 — 教科書に出ている個別的用法のほかに、各助詞の持つ基本的な意味をイメージさせるようにする。

文型 — 基本的な意味のほかに、人間関係・場面などを考慮した発話意図にも注目させる。似た意味を持つ既習文型の意味・用法との差を考えさせる。

語彙 — 似た意味を持つ語彙は、どの点で意味が違うのかに注目させる。すなわち、硬い表現なのか砕けた表現なのか、発話者（書き手）が身内について使うのか外の者について使うのか、発話者（書き手）の気持ちはどんななのか、その語彙にこめられた評価はプラスかマイナスか中立か。

漢字：読み方⁵⁾とその漢字を使った他の熟語

音読 — 初中級の段階では、音読は重要だと考えられる。音読は黙読の基礎となり、多読するためには黙読ができなければならないからである。授業では、単音やイントネーションばかりでなく、意味を理解して読むとどうなるか、すなわち、音の区切りは意味の区切りだということに注意して読ませる。

文体 — 文体の違いは言語形式としては、文末ばかりでなく、文中の活用形や語彙（連体詞・動詞・形容詞・副詞・接続詞・助詞など）でも表現されること、また、用法上は待遇表現上の差であることに注目させる。つまり、誰が誰に対して、何について、どんな場面で、何のために発せられた文であるかに注目させる。

また、その文は書かれたものすなわち文字表現ではある

5) 日本語センターでは、読解クラスでは漢字の書き方は教えず、読み方のみを扱うことになっている。

が、元来話し言葉なのか書き言葉なのかについても教師側は留意すべきである。これは、同じ語彙を使っても、一般に書き言葉のほうが改まり度が高くなるからである。たとえば、「しかし」という言葉は、話し言葉では少し改まった発話に用いられ、書き言葉では改まりもしなければ砕けもしない普通のレベルの言葉と受け取られよう。また、ダ体は、話し言葉では親しい人との会話に用いられるが、書き言葉では普通レベルの文章に用いられることも学生に指摘する。

文章の展開：接続詞，文章を統括する文型「～のだ」

背景 — 話題が学生に馴染みのない場合に紹介する

内容理解：事実関係（いつ，どこ，だれ，なに，どう）

類推（書いてあることのみ，または背景も考えに入れて）

本文内容に関して学生から意見が出た場合はそれを取り上げて全員で検討する

2. どう指導するか ——教室作業の基本方針——

読解の授業とはいっても、聞く・話す・読む・書くの4技能すべてを使わないわけにはいかない。学生・教師ともに、質問をするにも答えるにも、授業中はこの4技能は必須である。しかし、初中級の段階では、まだ聞くこと・話すことに慣れていない学生が多いので、コミュニケーションを図るためにも、教室内では教師と学生、学生同士のやりとりを多くするようとくに心がける。

授業での各課の一般的な作業の流れを述べると、

(1) 学生が自宅で予習してきたことを前提にして、まず教師が一文ずつまたは全文を通して模範音読をする。この後で、学生からの質問を受ける。学生には、質問を歓迎する旨を常々言っておく。これまで、このときの質問は、語彙の意味・使い方と文法に関したものが多く出た。要点となる質問が出ないときは、教師のほうから質問をする。このときの質問は、

主に文法に関するもので、一例を挙げると、動詞の主語・目的語を「誰がしましたか」「何をしましたか」と問い、名詞の修飾関係については、一文の中のどこからどこまでが修飾句か確認するために「どんな～ですか」と質問する。また、語彙については、学生が知っている言葉で説明させる。

文法関係の質問を主にする理由は、初中級の段階では、文章の中でまず文法を確認してから内容理解へ移るのが学生にとって無理がないと考えられるからである。実際、この4学期間に学生から出た質問の多くは、文法、とくに文型に関するものであった。

(2) 次に、学生に少しずつリレー式で音読させる。このとき特に、意味単位で区切って読んでいるかを注意する。この間にも、学生から質問があるときは受け付ける。

(3) このあと、内容理解の確認に移る。たいていの場合、練習問題に出ていない質問にも口頭で答えさせた後、練習問題を配布する。練習問題の答えは、文章の難易度によって、口頭のみ、口頭と板書、口頭の後で用紙に書いて提出、書いて提出のみなど、確認方法は異なる。書いて提出させる場合でも、その場で文法の誤りを指摘することもある。練習問題のときに学生から意見が出ることが多いが、その場合は全員で検討する。

また、練習問題をいつ学生に配布するかについては、本文を読み終わった後で配ってほしいという要望が学生から多く出た。これは、練習問題を解くために本文を読むのではなく、まずは本文に集中して理解したいという気持ちの表れであろう。

(4) 次週に、漢字の読み方、助詞、語彙、活用などについて試験を行う。答えは提出順にその場で採点し、全員が書き終えたところで返却して答え合わせをする。その後、練習問題の解答など前週に提出されたものがあれば、添削したものを返却して講評を行う。このときにも、学生から意見・質問が出されれば取り上げる。

3. 教科書『日本語読解3』を使った授業の概要

3. 1. 教科書本文編の概観

以下に、『日本語読解3』の各課の題名と、「読解3AB」クラスにおいて、これまでの4学期間にどの課を取り扱ったかを示す。表中の数字①は2000年度春学期、②は同年度秋学期、③は2001年度春学期、④は同年度秋学期にその課を授業で使用了ことを示す。

1課 自己紹介	②③④	16課 電車のアナウンス	①
2課 となりの小学校	① ③	17課 ホワイさんのボランティア	①②③④
3課 私の一日	①②③④	18課 母の独り言	①②③④
4課 私の夢	①②③④	19課 地方ニュース「最近のロボット」	①② ④
5課 オウさんの日記	①②③④	20課 携帯電話	①
6課 おすすめの店	①②③④	21課 除菌クリーナー	①
7課 リンさんの研究室案内	②③④	22課 食い倒れ・うどん・お笑い・大阪弁	③
8課 招待状	②③④	23課 期間限定商品	①
9課 学割	②③④	24課 怠けることの価値	①
10課 日本の地理	②③	25課 男が得か、女が得か	①
11課 ソウルと東京	②③	26課 誰と結婚するか	① ④
12課 ビザの注文	①②③④	27課 嘘	④
13課 天気予報	②③	28課 裁判Ⅰ 熱いコーヒー	
14課 履歴書	②③④	29課 裁判Ⅱ だれの責任か	①
15課 お礼の手紙	②③④	30課 人生の選択	

この教科書は30課から成っており、週1回二コマとして、1学期に多くても15回の授業では30課すべてを読むことはできない。授業でどの課を取り扱うかは、学生の学力や関心をみて決めていくので毎学期異なるが、学期当初は初級の復習を行い、学期中盤からはちょうど初中級にあたる課を扱っていくことにしている。

この教科書は話題中心に編まれており、学習項目の難易度順には必ずしも配列されていない。したがって、授業で扱う順序も教科書とは異なる場合がある。

指導項目・文章の長さ・扱っている話題から考えると、1課から16課までが初級の復習にあたる。17課から19課までは、文章も長くなり語彙も未知のものが多くなり、内容の面でも字義通りの文意を取るだけでは内容を理解したことにはならないため、この教科書の山場と言える。20課から22課までは学生に身近な話題で読みやすい文章となっており、学期中の息抜きの役目を果たしている。23課と24課はそれぞれ説明文と論説文で、硬い感じのする文章であり、各段落の要約および文章の展開も指導項目となる。とくに24課は内容が抽象的で文章も長いので、学生の実力と意欲がともに高く時間があるときにしか使用できない。25課から30課までは、読み手の意見を問う文章であるが、この段階まで進んでくると文法・語彙・内容ともに学生には難しく感じられないとのことで、学期の最後に学生主導で授業を行うのにも使える文章である。

3. 2. 練習問題について

前章1で挙げた指導項目を考慮に入れると、初中級の読解教材のための練習問題としては、内容理解に関するもの以外に、文字、語彙、文法、文章展開に関するものが考えられる。現在のところ、『日本語読解3』の練習問題はおもに内容理解に関するものであり、次の3種類に大別される。

- (1) 事実関係を問う問題 — 話の筋を問う問題 (いつ, どこ, だれ, なに, どう)。文法・語彙が内容に深く係わっている場合は、文法・語彙についての問題。文章の展開に関する問題
- (2) 書いてあることから学生に類推させて答えさせる問題
- (3) 読んだ内容について、学生個人の体験や意見を表明させる問題。この問題は、その課に出てきた語彙・表現・文型を使わせることも目的としている。

各課の授業では、時間の都合上練習問題すべてを扱うことはせず、学生の様子を見て適宜取捨選択して使用することになっている。

練習問題の答えは一つだけとは限らない。異なる答えが学生からいくつか出た場合は、なぜそう思うのかを話し合う。他の人の考えを知るためにも、自分の考えを人に知らせるためにも、答えを検討し合うことはつねに必要であり、教師はそのための雰囲気作りをしなければならない。

3. 3. 各課の指導項目と考察

では次に、各課の文章概略と筆者が設定した指導項目を述べ、指導方法や学生の反応などについて考察する。指導項目欄には、その課で新出の項目のみを記す。授業では、既出のものについても繰り返し復習することになっている。

1課 自己紹介

文章概略： 話し言葉を文字化した自己紹介の文。デス・マス体。

指導項目： 自己紹介に出てくる語彙 — ～出身，専攻，研究，趣味。
日本語の自己紹介の言語表現パターンと身振り — 「はじめまして」を名乗る前に言い、「どうぞよろしく」を自己紹介の最後に言う。

反応と考察： 名乗る前に「はじめまして」を言うと、その間に聞き手には相手の名前を聞く心構えができることを学生に説明する。

2課 となりの小学校

文章概略： 隣の学校に何があるか、いるか。デス・マス体。

指導項目： いる，ある。位置関係の表現

反応と考察： この課を扱う場合は、内容はきわめて易しいので読解作業はせず、指導項目を空欄に記入させる作業をする。

3課 私の一日

文章概略： 一日の過ごし方。デス・マス体。

指導項目： 一日の生活を表す語彙，片仮名語彙。助詞の復習 — は〈話題提示〉〈対比〉；に，から，まで，ごろ，ぐらい〈時を表す〉；

へ、に、で〈場所〉；で〈手段〉；動詞と共に起する助詞。文型：～とき、～たり～たりする、～てから、～て

反応と考察： 練習問題2—5)で、本文の最終段落の文「7時ごろうちへ帰って、夕ご飯を食べます」の「帰って」の部分で、「家に着いて」ではなく「図書館を出て」と解釈していた学生がいた。これについては、「～て」の前後の動詞は意味上密接な関係にあること、この場合は「うち」が二つの動詞を結び付けていること、したがってこの文脈では「うちに着いて、そこで夕ご飯を食べる」と解釈するのが普通であることを説明した。また、動詞の用法を覚えるときは、その動詞とよく一緒に使われる助詞を覚えるよう注意を促す。

4課 私の夢

文章概略： 子供のときから今までの自分の夢。ダ・ル体。

指導項目： 世界中・一日中／使用中・営業中。片仮名で書く語彙。 文型 — ～になる、～たい（と思う）、～ので、～からだ、～ながら、～（普通現在形）のが私の夢になった／私の夢は～（普通現在形）ことだ、～た／～ていた

考察： この課で語られている夢の一つの「スーパーマン」がどんな人なのか、これまでの学生は映画を見て知っていたが、今後知らない学生が出た場合、映像を見せるか語彙を変える必要がある。

5課 オウさんの日記

文章概略： ある日の日記。ダ・ル体。

指導項目： 〈やり・もらい〉 — 動詞の主語・方向性（送る側か受ける側か）、話者の気持ちに注目させる。行く、来る、返す、電話する、持っていく〈方向性をもつ動詞〉；文による連体修飾；～そうだと〈伝聞〉

考察： 3段落目に友人のホワイトについて書かれているが、「そのお菓子はアメリカのお母さんが（ホワイトさんに）送ってくれたのだそうだ」の文については留意点が二つある。一つ目は、日記の書き手は自分を第三者としてではなく友人のホワイトに視点を同化して書いているので「～て

くれた」を使っていること。二つ目は、「のだ」を「お菓子だ」と解釈するか、事情説明の「のだ」と解釈するかである。この文は「そのお菓子は」という提題表現で始まっているため、前者の解釈が一般的だと思われる。しかし、学生から質問が出た場合は、日記の書き手が友人の視点に同化して事情説明を行っているとも解釈できると説明している。

6課 おすすめの店

文章概略： 自分の好きな店の紹介。デス・マス体。

指導項目： 動詞の活用形から作られた名詞（例：すすめる→すすめ）、～ようだく推測）

考察： 内容も文法も簡単な文章なので、時間をかけない。

7課 リンさんの研究室案内

文章概略： 自分の研究室の紹介。ダ・ル体。

指導項目： 片仮名で書く語彙。文型：～ための〈目的〉、～ようにする、～ようになる、～たことがある、～に～てほしい、～だけでなく～も、～は～（普通現在形）ことだく連体修飾、～ても、（毎日、ずっと）～ている。課の題名を文に直す。

考察： 片仮名語の音読の練習が何回も必要であった。これは、この課の片仮名語にはすべて長音が入っているためと思われる。また、「お年寄り」の「お」と「年寄り」の間にポーズが入り、「おとしより」と聞こえる。学生は毎学期、この課で初めて、音声面でも文法面でも読みにくい文章に出会ったと述べている。

8課 招待状

文章概略： 学生の国際交流パーティーへの招待状。デス・マス体。

指導項目： 手紙の形式。敬語。～に招待する／～への招待。～ことにする、～ことになる。

考察： 毎学期、敬語をまだ学習していない学生がいる。また、学習したことがあっても、もう一度説明してほしいと言う要望が必ず出る。学生の中には、敬語はその言葉が指すひと（聞き手または第三者）に対して特別

に丁寧な気持ちを表す言語表現体系であり、デス・マス体／ダ・ル体は聞き手に対する話し手の心理的距離によって使い分けることに気づいていない者もいる。敬語は15課と16課にも出ているが、最近2学期は、この8課が終わってすぐに15課を読んだが、学生は敬語に集中できて結果は良いようである。音声面では、「お～になる」「お～する」を発音するとき、一語としての認識が薄いためか、「お」と「～になる／する」の間にポーズの入る学生が多い。

9 課 学割

文章概略： 大学での学割のもらい方。デアル体とダ・ル体。

指導項目： ～ば・～と、～なければならない、～間に、～とは～のことである

反応と考察： 大学で学割をもらって駅で使うまでの手順を正しく理解していない学生がいたが、練習問題への追加が間に合わなかったので、試験でこの点を確認することにした。学生からは、列車以外の学割の話が毎学期出る。

10 課 日本の地理

文章概略： 日本の地理。デス・マス体。

指導項目： 地理用語。～しか～ない、～から～（普通形）のです。て形の代わりに使う連用形（例：美しく、）

考察： 非常にやさしい文章で情報量も少ないため、時間に余裕のあるときに読む。

11 課 ソウルと東京

文章概略： 韓国人の女子学生によるソウルと東京の比較。デス・マス体。

指導項目： ～より、～と同じ、似ている〈比較〉；～という〈名称〉

考察： 文章はやさしいが、学生の中に韓国出身者がいない場合は、他の学生に関心が湧かないため授業では扱わない。

12 課 ピザの注文

文章概略： 宅配ビザの注文の仕方。デス・マス体。

指導項目： 自動詞と他動詞（構文と意味の違い）；受身形；～かどうか／（疑問詞）～か；～たあと；（だんだん）～てくる；～ましょう；指示詞

考察： この課は指導項目からみるとまだ初級の復習段階にあるが、学生にとっては身近な話題であり、情報としては新しいものではないものの言語表現としては新知識が得られるらしく、読んだ、分かった、という実感の湧く文章のようである。時間があり、かつ学生に余力があれば、客と店員の電話での会話を描いた練習問題4が効果的であろう。また、臨場感を出すために、実際のチラシを用いる。

13課 天気予報

文章概略： 関東地方の天気予報。デス・マス体。

指導項目： 天気関係の語彙。そうだと様態，（形容詞）くなる，～のうち

考察： 読んで分かればよい文章なので、時間をかけない。

14課 履歴書

文章概略： 履歴書に記入する項目の説明。デアル体。

指導項目： 履歴書関係の語彙。～とは～である〈定義〉

考察： 本文に履歴書記入例がつけてあるが、時間の都合でまだ実際に使用したことはない。

15課 お礼の手紙

文章概略： 就職活動のために先輩にひとを紹介してもらったお礼の手紙。デス・マス体。

指導項目： 敬語（とくに、「お～いただく」「お～くださる」）。内容理解 — 誰が誰に宛ててなぜ書いたのか。類推 — 手紙文に出てくる3人はどのような関係か。

考察： 類推問題の解答は学生によって異なる。なぜそう思うのか、学生同士で質問し合うことが多い。練習問題の答えを書くとき、登場人物3人

と我々（学生と教師）の間には実際には何ら人間関係が存在しないので、登場人物について敬語を使う必要はないことを指摘する。

16課 電車のアナウンス

文章概略： 駅や電車の中での放送を集めた文章。デス・マス体。

指導項目： 敬語 — お～です，お～ください，お～の。～ようとする，～ように気をつける

考察： この種の放送は，口をついて出てくる学生もいるほど馴染み深いため，読んで理解するのに時間はかからない。日本の車内放送や構内放送はくどいと言われるが，練習2ではそのことについて学生の意見を聞いている。

17課 ホワイトさんのボランティア

文章概略： 日本の老人ホームでのボランティア経験。ダ・ル体。

指導項目： 助詞 — の（日本でのボランティア；昔からの友達；……などの話）。～てから……（期間）になる，～のに，～てみる，～ことにする，～し，～のように，～のを楽しみにする，（形容詞）そうに，いつ～ても。話し手・書き手の気持ちを表す助詞や文型 — ～てしまう，～てくれる，～てあげる

考察： この課から文章が長くなり，内容も学生にとっては未知のものが多くなる。練習問題数も多くなるうえ，本文をそのまま書き写せばこと足りる設問ばかりではなくなる。語形を変えたり，言葉を補ったり，類推を要する設問が増える。こうした練習問題には，まず口頭で答えさせてから書いて提出させ，添削・講評することが欠かせない。学生個人に関する質問は，この課では学生の日常生活で使える語彙が多く出ているため，それらを使って答えるものを用意した。学生からは，設問数が多くて書くのが大変だったが勉強になったという声が毎回聞かれる。この課で学生からよく出る質問は，「不安」と「心配」，「お年寄り」と「老人」の意味の違い，「楽しむ」「楽しみにする」「楽しみだ」の用法の違いである。

18課 母の独り言

文章概略： 大学生の息子の下宿暮らしや交友関係についての母親の感慨。ダ・ル体。

指導項目： 語の意味や言葉が示す状況を考えさせる — 一人暮らし、通う、電話もかけてこないくさえ、わたしのほうが、こっそり、息子の様子、足の踏み場もない、ようやく、ラーメンの袋の話をする、あいつ、友情は気がつかないうちに生まれている

文法・文型 — ～の（だろう）か、～もく～さえ、電話をかける／電話をかけてくる、帰る／帰っている、自動詞・他動詞／～ている・～である、～と～たく発見、～だく他の動詞の代用、～（形容詞）そんな顔をする、～ては～、～（普通現在形）こともある、～ないうちに、～のかもしれない

その他： 臨場感を出すための時制の交替（～た→～る）

考察： 学生は毎学期、この課が今まででいちばん難しいと言う。新出語彙が多いうえに、文章が表している状況・場面を想像するのが難しいらしい。これは、この課の文章が、17課の書き手自身を多少客体化した文章とは違い、全くの主体文のためだと考えられる。学生には、この課を乗り越えればもうレベル4に近いと勇気づけている。この課では、練習問題に移る前に、本文をもう一度読みながら質疑応答をして文章の状況・場面を考え直す機会を設ける。

練習問題の特徴および教室での扱い方は17課とおおむね同じである。本文の登場人物は実際には、母、息子、息子の友人の3人である。これが設問では、「母親」「息子」「息子の友達」と記されている。設問に答える際の注意として、これらの使い分けは、話し手・書き手の視点・立場によることを教える。すなわち、「私の～」の場合は「母／母親」「息子」が、その他の場合で親しみを表明するときは「（誰々（さんの））お母さん、息子さん」が、親しみを表明しない中立的な立場では「（誰々（さんの））母／母親、息子」が一般に使われることを知らせる。

19課 地方ニュース「最近のロボット」

文章概略： ロボット犬とロボット猫についてのニュース。デス・マス体。

指導項目： 文法・文型 — 受動態，～ているうちに，～ような錯覚，～といっても，～ようになっている，～ように努力する，～（の）形をしている／～（の）形をした～〈連体修飾〉，丸い／～さ／～み。談話文型 — ～のでしょうか〈問題提起〉

考察： 本文に入る前にビデオを見せるが，学生のほとんどがこの種のロボットについてよく知っている。内容自体は問題ないが，抽象的とも言える感情・心理を表す語彙が多く出てくるため，字面だけを読んでいると最初は読みにくいようである。こういうときこそイメージを浮かべながら読むことが大切だと強調する。

以下20課から25課までは，練習問題の作成後まだ使用したことがないため，本文の概略と指導項目を主に記す。

20課 携帯電話

文章概略： 携帯電話の便利な点・不便な点を挙げて，読み手に使いたいかどうかを問う。デス・マス体。

指導項目： ～でしょう／～でしょうか，どうして～のでしょうか〈問題提起〉／～のです〈解答〉

21課 除菌クリーナー

文章概略： 除菌クリーナーと抗菌製品を話題にして，日本人は清潔なのか不潔なのかを読み手に問う。デス・マス体。

指導項目： ～と言う／～という人。〈問題提起〉の文はどれか。

22課 食い倒れ・うどん・お笑い・大阪弁

文章概略： 大阪人は個性的であるということを描いている。デアル体。

指導項目： ～ごと；～すぎる；また，……

23課 期間限定商品

なぜ多くの期間限定商品が売りに出されるのか問題提起して，その解答を

示し、最後に日本人は新しもの好きなのではないかと読み手に問う。デス・マス体。

指導項目： 指示詞；〈使役〉；～の／～こと〈連体修飾〉；～のです〈文章のまとめ〉；どうして～のでしょうか〈問題提起〉；～のです〈解答のまとめ〉；～のではないのでしょうか〈疑義を含んだ柔らかい問題提起〉；文章の展開

24課 怠けることの価値

文章概略： ライオンと比較して、人間の働きすぎを戒め、地球全体を救うためにも自由時間を楽しむべきであると説く。デアル体，ダ・ル体。グラフ入り。

指導項目： 硬い語彙表現。～とともに，～に比べ，～ほど，～をもとに。文型 — ～だろうか，～わけではない，～ほどでない，～たらいいか，～ことになる〈結果〉，～とは何だったのか／～とは何だろうか〈問題提起〉，～ではないか〈婉曲的な解答〉。指示詞。各段落の内容のまとめ。文章の展開

25課 男が得か，女が得か

文章概略： 女性のほうが得かもしれないと思っている男性と，現実には男性のほうが得だろうと思っている女性の意見。ダ・ル体。

指導項目： 使役受身。～ちゃだめ，なかなか～ない，～はずだ

26課 誰と結婚するか

文章概略： 結婚を希望している女性とその相手候補者を紹介し，誰と結婚したらよいか読み手に問う。女性の紹介はデス・マス体，相手の紹介はダ・ル体。

指導項目： 体言止めの文。

考察： 学生に20課以後の中から読みたい文章を今までに3回選ばせてみたところ，この課が2回選ばれたが，結婚という話題に惹かれてのことと思われる。語彙，構文，内容ともにやさしく，学生主導で授業をしても何ら問題はなく，意見の交換にも盛り上がりが見られた。

27課 嘘

文章概略： 四つの場合について嘘だと言えるかどうか読み手に問う。デス・マス体。

指導項目： 嘘だと言える／嘘を言う・嘘をつく

考察： 医者が患者に癌だと宣告せずに他の病名を告げた場合、それが嘘だと言えるのか言えないのかについての意見は、学生の生きている社会環境も反映しており、筆者も考えさせられるところが大きであった。

28課 裁判Ⅰ 熱いコーヒー

文章概略： 米国カリフォルニア州で女性がハンバーガー店のコーヒーでやけどをし、店を訴えた裁判での両者の主張とその裁判結果を示し、読み手の審判を問う。デアル体。

指導項目： そこで、～べきだ、(やけどをする)ほど(熱い)、なかなか～にくい、～た以上、～たら

29課 裁判Ⅱ だれの責任か

文章概略： イタリアのローマで、ビル掃除の男性が、女性が着替えているところを見て地面に転落し、大怪我をしたうえ借金を抱えて失業し、その女性を訴えた裁判での両者の主張を示し、読み手の判断を問う。デアル体。

指導項目： ～ようとする、～たまま、そのまま、～ているところ(を見る)、(普通形)としたら<仮定>

30課 人生の選択

文章概略： 三人の男性の生き方のうち、誰の生き方ががいいと思うか読み手に問う。デス・マス体。

指導項目： ～なければならない／～なくてはならない

4. おわりに

(1) 初中級レベルでは文法から内容理解へ — 学生からは学期を通して、意味の似た語彙・文型の意味や用法の違いについて質問が多く出る。

内容については、意見は出るが、質問はそう多くはない。最近では、自分たちのレベルでは文法が重要だと言明する学生が増えている。このことから初中級レベルでは、各課で、まず文法を扱い（すなわち、初級文法の復習と未習文法の学習を行い）、それから内容理解に進むという手順をふむのが妥当だと思われる。

(2) 学生からの質問・意見歓迎 — 学生に教室外でも読むことを奨励するためにも、また読んだものについての意見交換は教室内でこそできる作業であることから、学生から質問や意見が出たときは出来る限り取り上げた。これにより、学生の学習意欲も保たれ、クラス運営もかなり円滑にいったと感じられた。

(3) 教材について — 現在のところ、練習問題は主に内容理解に関するものである。これについても今後毎学期再検討を要するが、学生から多く出る質問を考慮に入れると、語彙と文型に関する練習問題を教科書とは違う文脈で作成する必要がある。また、本文編で、時事的な話題を扱った課については、今後ニュース性が低くなることを考えると、話題の提示の仕方や本文内容の見直しが再検討されなければならなくなろう。

(4) 教師の心構え — 初中級レベルが初級と中級の間に位置することから、このレベルを担当する教師は初級、中級両方の学習項目についてかなりの程度知っておかなければならないと痛感している。